

病害虫発生予察情報予報第 3 号

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名	7月の予想発生量 ^{注1)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注2)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
水稲 (早期)	穂いもち	並	並	144~149	 斑点米カメムシ類
	紋枯病	やや多	やや多	151~152	
	斑点米カメムシ	多	多	169~170 187~190	
	1. 斑点米カメムシ類 牧草地及び雑草地において斑点米カメムシ類の発生が多い。水稲の出穂 10 日前までに畦畔を含めて除草を行う。乳熟期（穂揃い期の約 10 日後）に薬剤防除を行う。また、穂揃い期以降においても各地域で 20 回すくい取り等を行い、5 頭以上認められた場合は追加防除を実施する。				
水稲 (早植え)	葉いもち	並	並	144~149	 セジロウンカ
	トビロウンカ	並	やや多	154~161	
	セジロウンカ	やや多	やや少	162~164	
	コブノメイガ	並	並	166~167	
1. ヒメトビウンカ 平年に比べ本田での発生が多い。本虫はイネ縞葉枯ウイルス等を媒介するため、本病の発生または本虫の多発生を確認した場合には直ちに本虫を対象とした薬剤防除を実施する。					
水稲 (普通期)	葉いもち	並	やや少	144~149	 トビロウンカ
	トビロウンカ	並	並	154~161	
	セジロウンカ	並	少	162~164	
	コブノメイガ	並	並	166~167	
1. トビロウンカ 6 月 24、25 日に飛来が認められた。今後の本田での発生及び新たな飛来に注意する。 2. いもち病 補植用苗や畦畔に放置された一部の残り苗にいもち病がみられる。これらの残り苗は、葉いもちの伝染源になるので速やかに除去する。本田で、新たな病斑の発生が認められた場合には、速やかに防除を行う。 3. スクミリンゴガイ 平年に比べ本年の発生は多いと予想している（発生予察第 2 号参照）。大雨による浸冠水によりスクミリンゴガイが侵入した水田では、直ちに薬剤防除を行う。					
水稲全般	1. 海外飛来性害虫（ウンカ類、コブノメイガ） 今後の飛来状況に注意し、圃場における発生状況を確認する（佐賀県農業技術防除センターのホームページを参照） 2. イネいもち病 BLASTAM による感染好適条件の出現状況を参考に、圃場での発生に注意する（佐賀県農業技術防除センターのホームページを参照）。				

作物名	病虫害名	7月の予想発生量 ^{注1)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注2)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
イチゴ(育苗圃)	ハダニ類	やや少	やや少	208~209	 うどんこ病
	うどんこ病	並	やや多	198~200	
	苗立枯症 (炭疽・疫病)	やや多	やや多	202~206	
	アブラムシ類	多	やや多	213~214	
<p>1. うどんこ病 親株でうどんこ病の発生が多い圃場が一部で見られる。子苗での発生を抑えるため、古葉の葉かぎを行うとともに丸噴口等を用いて丁寧に薬剤散布を行う。</p> <p>2. ハダニ類 一部の圃場でハダニ類の寄生が見られる。主要薬剤に対し、ハダニ類の感受性が低下した圃場が多いと考えられるため(平成28年8月31日付け病虫害対策資料第9号参照)、育苗期の防除には、薬剤抵抗性の発達が少ないとされる気門封鎖系薬剤を活用する。ただし、本剤は殺卵効果がないため、成・幼虫を対象に5日間隔で複数回連続散布する。</p> <p>3. 炭疽病、疫病、萎黄病 炭疽病、疫病、萎黄病については、ビニル雨よけや水滴の小さい灌水装置を利用して、水はねによる菌の飛散を防ぐ。また、炭疽病については、親株からの定期的な薬剤防除を徹底する。これらの発病株は早急に圃場外に持ち出し適切に処分する。</p>					
アスパラガス	茎枯病	やや多	やや多	323~324	 ネギアザミウマ
	褐斑病	やや多	並	324~325	
	斑点病	やや多	並	324	
	アザミウマ類	やや多	やや多	327	
	ハダニ類	並	やや多	327~328	
<p>1. 茎枯病、褐斑病、斑点病 降雨時以外は施設開口部を開放し通風を図る。各病害に対し3週間間隔を目安とし発生前から薬剤防除を実施する(前年多発生圃場及び既発生圃場、降雨日が続く場合は間隔を短縮)。降雨時にサイドビニルを降ろす際は、完全に閉めず通風が確保できる程度開放する。茎枯病の発病茎は見つけ次第、除去し適切に処分する。</p> <p>2. アザミウマ類 平年及び前年に比べ発生が多い。若茎及び親茎への寄生や食害による被害を防ぐため、虫見板(約20×30cm)への払い落とし(擬葉部を2~3回叩く)により発生頭数を調査し、成虫が1ヶ所当たり3頭以上認められる場合は薬剤防除を行う。</p>					

作物名	病虫害名	7月の予想発生量 ^{注1)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注2)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
カンキツ	そうか病	並	並	218~220	 チャノキイロアザミウマ
	かいよう病	並	並	222~224	
	黒点病	やや多	やや少	220~222	
	ミカンハダニ	やや多	やや多	242~244	
	チャノキイロアザミウマ	やや多	多	236~242	
	1. チャノキイロアザミウマ 一部地域で本虫の発生が多くなっている。例年被害を生じる園や薬剤防除の間隔が空いている園等では、早急に防除を実施する。それ以外の園についても、7月中下旬頃に薬剤防除を実施する（平成29年6月14日付け病虫害対策資料第4号参照）。 2. ミカンサビダニ 昨秋に発生が多かったことから、現在の本虫の密度は高いと考えられ、今度の降雨により薬剤散布が滞れば発生が多くなると考えられるため、雨の合間をみて防除を実施する。特に、例年被害を生じる園や管理不良園に隣接する園では7月上中旬頃の薬剤防除を徹底する。 3. チャノココクモンハマキ 5月以降、高温少雨で推移したことで、本虫の発生が多くなっている。特にハウスミカンでは防除を徹底する。				
ナシ	黒星病	並	やや多	287~290	 ナシ黒星病
	ナシヒメシンクイ	並	並	301~304	
	ハダニ	並	並	306~309	
	1. 黒星病 一部圃場で発生が多い。梅雨期間は主要な伝染期であるため、6月下旬~7月上旬に、DMI剤による防除を必ず実施する。発生園や常発園、雨が続く場合には、DMI剤を追加散布する。 2. ナシヒメシンクイ 近年、被害が見られている。降雨が多いと計画的な防除ができず、被害が増加しやすいので、散布間隔を空けないよう天気予報等を参考に適切に防除を行う。 3. ハマキムシ類、モモノゴマダラノメイガ 今後、発生が多くなると考えられるので、雨の合間をぬって薬剤防除を徹底する。 4. スピードスプレイヤーによる薬剤散布 全列走行を基本とし、薬液が到達しにくい園周縁部等は手散布を実施するなど、丁寧に散布する。				
ブドウ	黒とう病	やや多	やや少	334~336	 ブドウべと病
	べと病	やや多	多	337~339	
	褐斑病	やや多	やや多	339~340	
	チャノキイロアザミウマ	やや多	多	346~347	
	1. べと病 降雨により発病が進展するので、降雨前の予防散布を徹底する。また、べと病の罹病葉は、伝染源となるので必ず除去し、園外に持ち出して適切に処分する。 2. スピードスプレイヤーによる薬剤散布 全列走行を基本とし、薬液が到達しにくい園周縁部等は手散布を実施するなど、丁寧に散布する。				
果樹全般	果樹カメムシ類	並	並	カキツ：248~251 ナシ：304~305 ブドウ：351	 チャバネアオカメムシ

作物名	病虫害名	7月の予想発生量 ^{注1)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注2)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
茶	炭疽病	多	多	410~411	 カンザワハダニ
	輪斑病	やや多	多	411	
	カンザワハダニ	多	多	415~416	
	クワシロカイガラムシ	やや多	多	422~423	
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや少	並	420~421	
	チャノキイロアザミウマ	並	やや多	421~422	
	チャノココクモンハマキ	やや少	やや多	418~420	
	チャノホソガ	やや多	やや多	417~418	
<p>1. カンザワハダニ 多くの圃場で発生が見られる。生息部位である葉裏へ薬液が十分にかかるように丁寧に散布する。また、薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤は年一回の使用とする。</p> <p>2. クワシロカイガラムシ 防除適期は第二世代幼虫ふ化最盛期の7月中下旬頃である。園内の発生状況を観察して、適期に防除を行う。</p> <p>3. チャノホソガ 6月の誘殺数が多くなっている。三番茶開葉初期の防除を徹底する。</p> <p>4. チャトゲコナジラミ 7月は成虫の発生時期であるため、園内の発生状況をよく観察する。発生園では、成虫が見られなくなった頃（若齢幼虫期）に防除を徹底する。</p>					

注1) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注2) 防除対策については「[佐賀県病虫害防除のてびき](#)」も参照してください。

注3) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

6月1日~8月31日の3か月間は農薬危害防止運動期間です。 農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理を徹底しましょう。

◎ほ場のみならず、公共施設内の植物、街路樹及び住宅地に近接する場所において農薬を使用する場合は、**農薬の飛散が周辺住民や子供等に健康被害を及ぼすことがないようにしましょう。**

◎農薬やその希釈液、残渣等はペットボトル、ガラス瓶等の飲食品の空容器等へ**移し替えたりせず、施錠された場所に保管する**等、保管管理を徹底しましょう。

◎土壌くん蒸剤を使用する場合は、農薬の容器に表示された使用上の注意事項等に従い、防護マスク等の防護装備の着用、施用直後の**ビニール等での被覆等を実行**等の安全確保を徹底しましょう。

II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去 10 年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
 なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
- 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1 ページの予報の概要にリンク有り）。

写真

- 1 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
 6 ページ目以降：巡回調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

7月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 7 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 3 ヶ月予報（平成 29 年 6 月 23 日）を基に、「気温：平年並」、「降水量：平年よりやや多い」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	3 ヶ月予報における 7 月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	30	30 (26.8℃)	40	並
降水量	20	40 (338.5 mm)	40	やや多

Ⅲ. 7月の予報

早期水稲（上場地域）

巡回調査 6月22日



巡回調査圃場の様子（早期水稲）

1. 穂いもち

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

①巡回調査（図1参照）

葉いもち発生株率0%（平年2.3%、前年8.7%）

平年比：やや少（-～±） 前年比：少（-）

(2) 葉いもち感染好適条件出現状況【県内、隣接県 計11地点】

BLASTAM（6月23日～29日）において、感染好適条件は6月24日に1地点、28日に8地点、29日1地点で出現し、感染準好適条件は出現しなかった（表1）。（±～+）

(3) 7月の気象予報

降水量はやや多く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 葉いもちの発生が認められたほ場では、穂ばらみ期に穂いもちの防除を行う。葉いもちの発生が上位葉に見られるなど穂いもちの多発が予想される場合には、穂揃い期にも防除を行う。

(2) その他については、特記事項（水稲全般）を参照する。

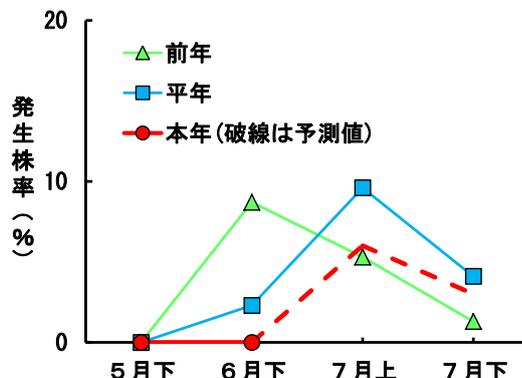


図1 早期水稲での葉いもちの発生推移

表1 BLASTAMによる葉いもちの感染好適条件の出現状況

月日	佐賀県						福岡県			長崎県	
	唐津	伊万里	佐賀	嬉野	白石	川副	前原	太宰府	久留米	松浦	佐世保
6月23日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
24日	—	—	—	—	—	—	—	—	10	—	—
25日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
26日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
27日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
28日	—	—	10	10	10	10	10	10	10	10	—
29日	—	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—

注) 1：準好適条件（前5日間の平均気温は20℃未満だが、湿潤が10時間以上）
 2：準好適条件（前5日間の平均気温は25℃を越えているが、湿潤が10時間以上）
 3：準好適条件（湿潤期間中の平均気温は15～25℃でないが、湿潤が10時間以上）
 4：準好適条件（湿潤期間中の気温は比較的低いだが、湿潤が10時間以上）
 10：好適条件（湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもちの感染好適条件が出現した）
 —：好適あるいは準好適条件の出現なし
 ?：判定不能

ブラスタム（BLASTAM）情報の使用上の注意

- BLASTAMは、気象条件（アメダスデータ）のみによって葉いもちの発生を予測するシステムであり、BLASTAMでの感染（準感染）好適条件の出現回数が多い場合、葉いもちの発生面積が急増し、発病程度も激しくなることが予想される。しかしながら、葉いもちの発生には、気象条件の外にも、菌の多少（密度）、イネ品種による抵抗性や体質、薬剤防除条件なども関与するため、葉いもち発生予察の参考資料の一つとして扱う。
- BLASTAMは、葉いもちを対象としており、稲の移植約20日後からの35日間（6月15日移植の場合、7月5日～8月10日）が適用期間とされている。ただし箱施薬が行われた圃場で、薬剤の効果が持続する期間にはBLASTAMは適用できないので注意する。
- 葉いもちは、菌が進入してから発病するまで約1週間かかるため、BLASTAMで感染（準感染）好適条件が現れた場合、その約1週間後から初発あるいは病斑数が急激に増加することが予想される。

2. 紋枯病

1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率0%（平年0.0%、前年0%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

(2) 7月の気象予報

降水量はやや多く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 早期水稻の出穂期～登熟期は気温が高い時期であり、本病が進展しやすいので、出穂の20～10日前（粒剤の場合は30～20日前）を中心に防除する。

(2) 薬剤は株元に十分かかるように散布する。

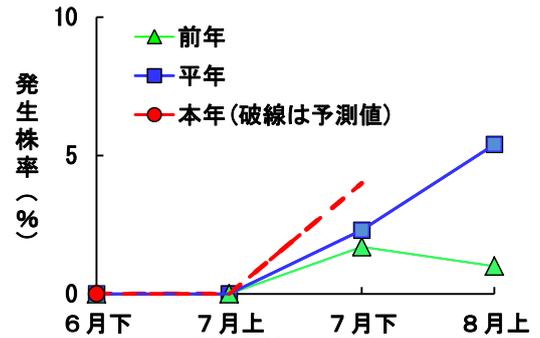


図1 早期水稻での紋枯病の発生推移

3. 斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ類、アカスジカスミ

カメ、ミナミアオカメムシ等）

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 水田隣接のイネ科植物でのすくい取り調査（6月22～26日）

シラホシカメムシ類、アカスジカスミカメの発生は平年より多い（表2）。〈+〉

(2) 7月の気象予報

並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照。

表2 斑点米の原因となるカメムシ類のイネ科植物におけるすくい取り調査結果

20回すくい取り虫数（2017年6月22～26日）

調査地点	場所	草種	クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		シラホシカメムシ類		アカスジカスミカメ		ミナミアオカメムシ
			成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫
佐賀市	空き地	エノコグサ類	15	3	0	0	0	0	15	15	1
唐津市①	牧草地	イタリアンライグラス	0	0	0	0	0	0	91	39	0
唐津市②	空き地	イタリアンライグラス	0	0	0	0	2	0	187	157	0
唐津市肥前町③	牧草地	イタリアンライグラス	0	0	0	0	1	2	8	5	0
伊万里市	牧草地	イタリアンライグラス	0	0	2	0	1	0	81	77	0
嬉野市塩田町	道端	エノコグサ類	0	0	0	0	0	0	4	0	0
みやき町	道端	イタリアンライグラス	0	0	6	1	0	0	64	13	0
上峰町	空き地	エノコグサ類	0	0	3	2	4	0	29	3	0
白石町①	畦畔	エノコグサ類	7	0	0	0	9	0	0	1	0
白石町②	畦畔	エノコグサ類、ヒシバ	0	0	0	0	0	0	7	0	0
平均（本年）			2.2	0.3	1.1	0.3	1.7	0.2	48.6	31.0	0.1
前年			0.3	0.0	0.3	0.0	1.0	0.0	12.0	2.0	0.0
平年（過去10年の平均）			2.3	0.0	1.1	0.1	0.6	0.0	21.8	10.8	0.1

水稲（山間早植え）

巡回調査 6月23日



巡回調査圃場の様子（早植え水稲）

1. 葉いもち

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①巡回調査（図1参照）
発生株率0%（平年0.03%、前年0%）
平年比：やや少（-〜±） 前年比：並（±）
 - (2) 感染好適条件発生状況
早期水稲の表2参照。（±〜+）
 - (3) 7月の気象予報
降水量がやや多く、やや多発生の条件（±〜+）
 - 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 蔓延を防止するために、発生初期に防除を行う。進展型病斑（円形ないし楕円形で、中央が灰白色、周縁が紫黒色となる病斑）がみられた場合は、早急に防除を行う。
 - (2) その他については、特記事項（水稲全般）を参照する。

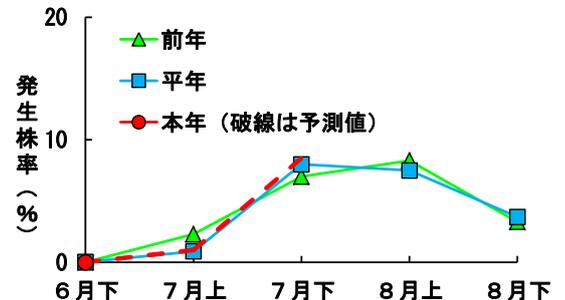


図1 山間早植え水稲での葉いもちの発生推移

2. トビイロウンカ

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) これまでの飛来状況
6月24日、25日に、嬉野市の予察灯において、それぞれ6、1頭の誘殺を確認したが、飛来量は平年(208.6頭)よりやや少ない（p.9、表3参照）。（-〜±）
 - (2) 発生の現況
 - ①巡回調査（図1参照）
発生株率0%（平年0.0%、前年0%）
平年比：並（±） 前年比：並（±）
 - 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項（水稲全般）参照。

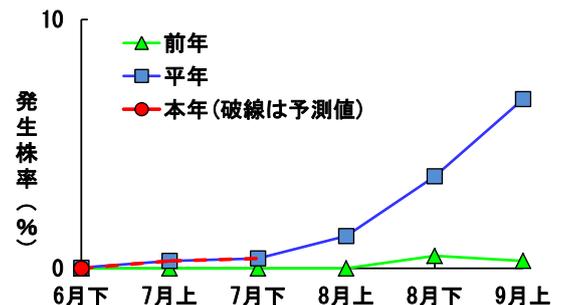


図1 山間早植え水稲でのトビイロウンカの発生推移

3. セジロウンカ

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや少ない）
- 2) 予報の根拠
 - (1) これまでの飛来量
平年並であった（表3）。（±）
 - (2) 発生の現況
 - ①巡回調査
発生株率4.3%（平年2.3%、前年9.8%）
平年比：やや多（±〜+） 前年比：やや少（-〜±）
 - 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項（水稲全般）参照。

4. コブノメイガ

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) これまでの飛来状況

平年並であった（p.9、表3参照）。〈±〉

(2) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率0%（平年0.0%、前年0%）

平年比：並〈±〉 前年比：並〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 止葉を含む上位3葉への被害を防止するため、多飛来した場合や新世代成虫の密度が高い場合には、飛来あるいは発蛾最盛期の1週間後に防除を行う。

(2) その他については、特記事項（水稻全般）を参照する。

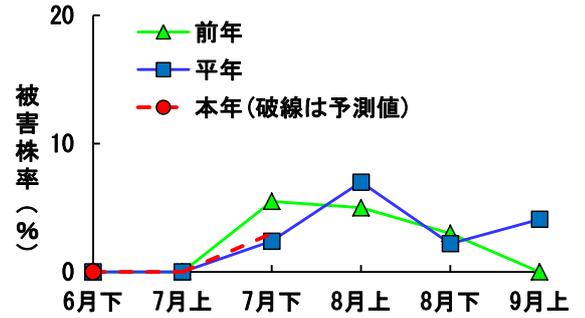


図1 山間早植え水稻でのコブノメイガの発生推移

表3 ウンカ類及びコブノメイガの飛来状況（平成29年）【平成29年6月29日現在】

月	日	トビイロウンカ						セジロウンカ						コブノメイガ							
		佐賀県			長崎県			佐賀県			長崎県			佐賀県				長崎県			
		佐賀市川副町	佐賀市川副町	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市川副町	佐賀市川副町	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市川副町	佐賀市川副町	神埼市	伊万里市	白石町	武雄市	諫早市	諫早市
ネットトラップ	ライトトラップ	ライトトラップ	ライトトラップ	ネットトラップA	ネットトラップB	ネットトラップ	ライトトラップ	ライトトラップ	ライトトラップ	ネットトラップA	ネットトラップB	フェロモントラップA	フェロモントラップB	粘着トラップ(20W蛍光灯)	粘着トラップ(20W蛍光灯)	粘着トラップ(20W蛍光灯)	粘着トラップ(20W蛍光灯)	フェロモントラップA	フェロモントラップB		
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	15日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	16日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	17日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	18日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	19日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	20日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	21日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	22日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	23日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	24日	0	0	6	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	25日	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	26日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月1日～25日の総誘数（本年）		0	0	7	0	0	0	0	0	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0
6月1日～25日の総誘数（平年）		0.6	1.7	208.6	—	—	—	113.7	58.7	1061.4	—	—	—	2.9	—	—	—	—	—	—	—

注1) ウンカ類：川副町ネットトラップと予察灯(ライトトラップ)は農業試験研究センター調査。嬉野予察灯は農業技術防除センター調査。

平年値は川副町ネットトラップと予察灯は過去36年、嬉野町予察灯は過去29年の平均値。嬉野町予察灯は、飛来数が極端に多かった平成3年を除外した数値。

注2) コブノメイガ：佐賀市は農業試験研究センターで調査。神埼市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。長崎県のデータは、長崎県病害虫防除所提供。

平年値は過去28年の平年値。平成27年までは20W蛍光灯粘着トラップ、それ以降はフェロモントラップ。

水稲（普通期水稲）

巡回調査 6月22日～26日



巡回調査圃場の様子（普通期水稲）

1. 葉いもち

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年よりやや少ない）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の実況
 - ①巡回調査（図1参照）
発生株率0%（平年0.3%、前年0.7%）
平年比：やや少（-～±） 前年比：少（-）
 - ②巡回調査時に、一部圃場で補植用苗にいもち病の発生を認めた（発生圃場率4.3%）。〈±〉
 - (2) 7月の気象予報
降水量がやや多く、やや多発生の条件（±～+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項（水稲全般）参照。

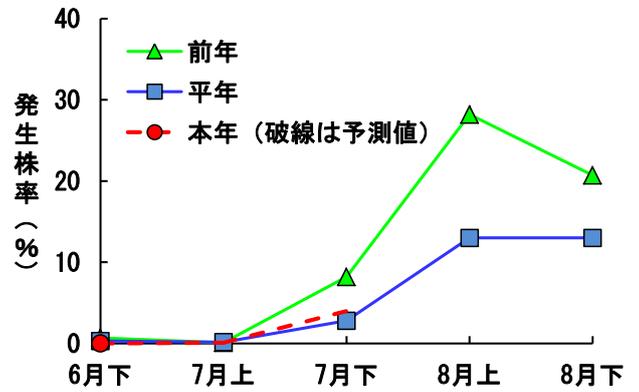


図1 普通期水稲での葉いもちの発生推移

2. トビイロウンカ

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) これまでの飛来状況
早植え水稲に準ずる（p.9、表3参照）。〈-～±〉
 - (2) 発生の実況
 - ①巡回調査
発生株率0%（平年0.0%、前年0.1%）
平年比：並〈±〉 前年比：少〈-〉
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項参照。

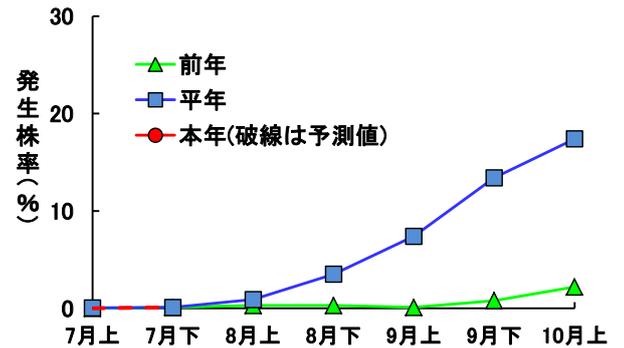


図1 普通期水稲でのトビイロウンカの発生推移

3. セジロウンカ

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年より少ない）
- 2) 予報の根拠
 - (1) これまでの飛来量
早植え水稲に準ずる（p.9、表3参照）。〈±〉
 - (2) 発生の実況
 - ①巡回調査
発生株率0%（平年1.2%、前年9.3%） 平年比：並〈±〉 前年比：少〈-〉
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項（水稲全般）参照。

4. コブノメイガ

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) これまでの飛来状況

早植え水稻に準ずる (p. 9、表 3 参照)。〈±〉

(2) 発生の現況

①巡回調査

発生株率 0% (平年 0.0%、前年 0%)

平年比：並 〈±〉、前年比：並 〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多飛来した場合や新世代成虫の密度が高い場合には、飛来あるいは発蛾最盛期の 1 週間後に防除を行う。

(2) その他については、特記事項 (水稻全般) を参照する。

イチゴ (育苗圃)

(巡回調査 11 圃場、
調査日：6 月 22 日～26 日、
親株を調査)



巡回調査圃場の様子

1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない (前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図 1 参照)

発生株率：8.4% (平年 6.4%、前年 7.3%)

平年比：並 〈±〉 前年比：並 〈±〉

(2) 7 月の気象予報

降水量がやや多く、やや少発生の条件 〈-~±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう注意する。

(2) その他については特記事項を参照。

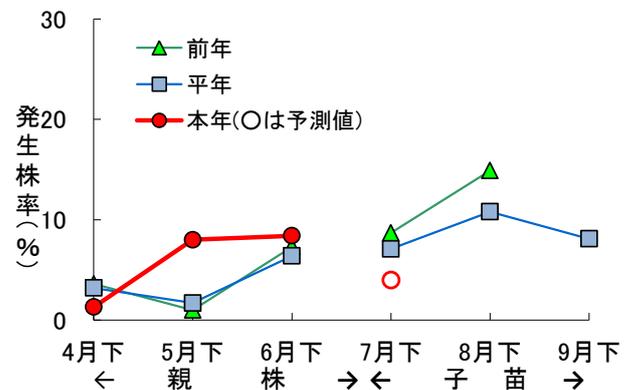


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年並 (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図 1 参照)

発生株率：30.0% (平年 41.2%、前年 30.0%)

平年比：やや少 〈-~±〉 前年比：並 〈±〉

(2) 7 月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件 〈±~+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう注意する。

(2) その他については特記事項を参照。

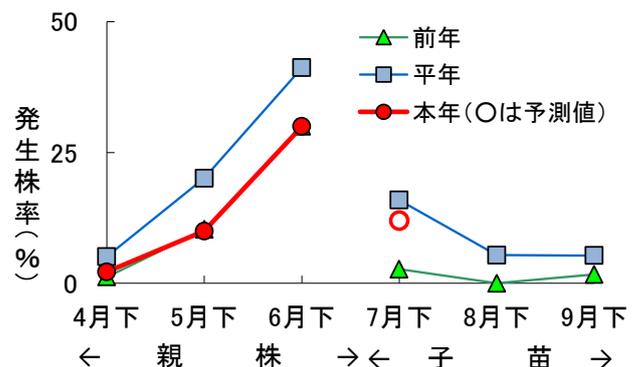


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

3. 苗立枯症 (炭疽病・疫病)

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 親株での発生の現況

①巡回調査 (図1参照)

発生株率: 0% (平年0%、前年0%)

平年比: 並(±) 前年比: 並(±)

(2) 7月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件(±~+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 降雨が多い梅雨期は病原菌の飛散、感染に好適な時期であるため、防除を徹底する。

(2) その他については特記事項を参照。

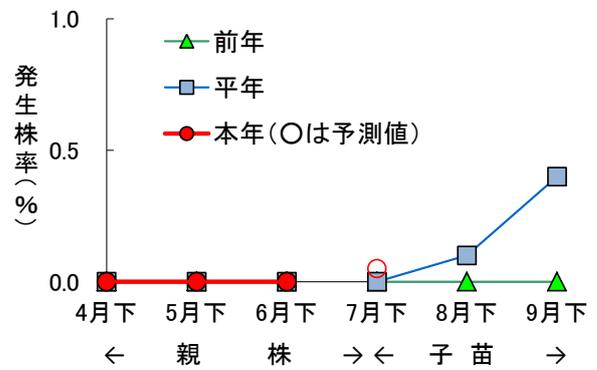


図1 イチゴ炭疽病・疫病の発生推移

4. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量: 平年より多い (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1参照)

発生株率: 3.6% (平年1.0%、前年1.7%)

平年比: 多(+) 前年比: 多(+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 圃場周辺の雑草は本虫の発生源となるため、除草を行う。

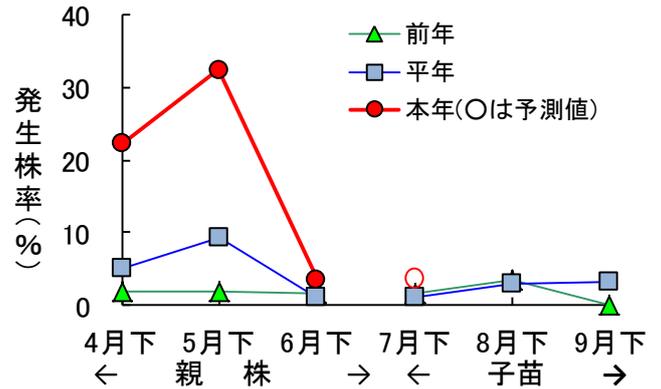


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移

アスパラガス

巡回調査 (8圃場)

調査日: 6月22日~23日

1. 茎枯病

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1参照)

発生株率: 0.1% (平年0.2%、前年0.3%)

平年比: 並(±) 前年比: やや少(一~±)

(2) 7月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件(±~+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。



巡回調査圃場の様子

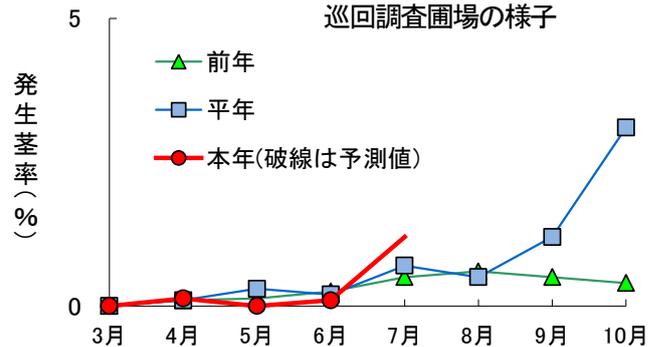


図1 アスパラガス茎枯病の発生推移

2. 褐斑病

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1参照)

発生株率: 0% (平年0.4%、前年3.1%)

平年比: 並(±) 前年比: 少(一)

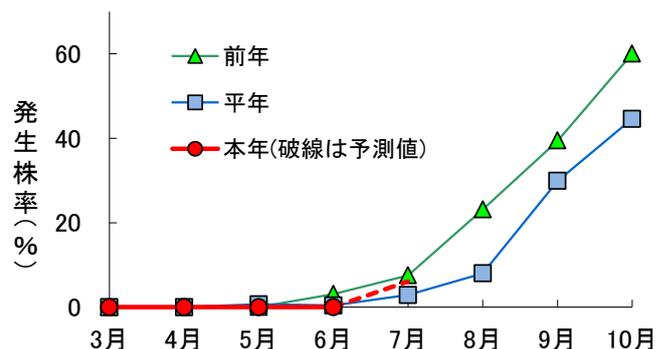


図1 アスパラガス褐斑病の発生推移

- (2) 7月の気象予報
降水量がやや多く、やや多発生の条件〈±～+〉

- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 特記事項を参照。

3. 斑点病

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年並）
- 2) 予報の根拠
(1) 発生の現況
① 巡回調査（図1参照）
発生株率：2.5%（平年3.5%、前年6.3%）
平年比：並〈±〉 前年比：少〈-〉
- (2) 7月の気象予報
降水量がやや多く、やや多発生の条件〈±～+〉
- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 特記事項を参照。

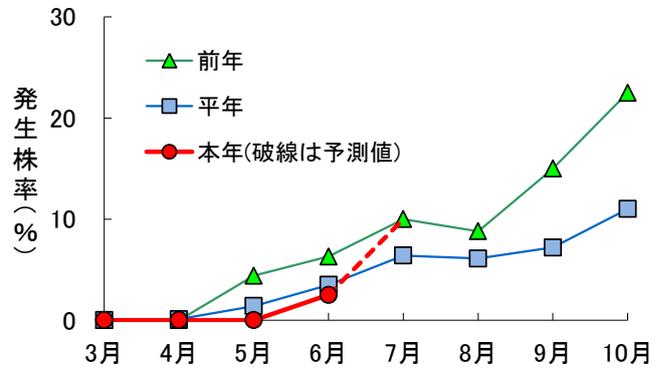


図1 アスパラガス斑点病の発生推移

4. アザミウマ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
(1) 発生の現況
① 巡回調査（図1参照）
発生株率：36.9%（平年23.9%、前年34.4%）
平年比：やや多〈±～+〉 前年比：並〈±〉
- (2) 7月の気象予報
並発生の条件〈±〉
- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 特記事項を参照。

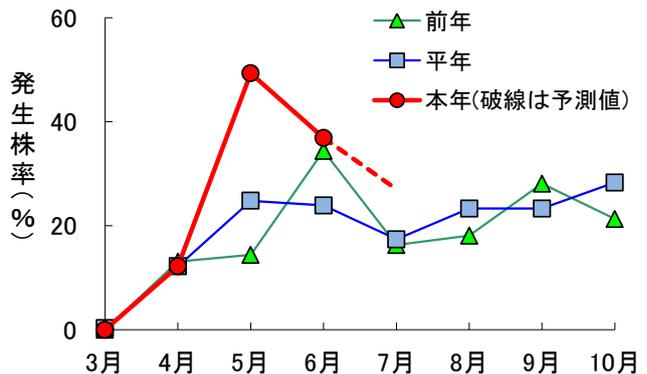


図1 アザミウマ類のアスパラガスでの発生推移

5. ハダニ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
(1) 発生の現況
① 巡回調査（図1参照）
発生株率：0%（平年1.7%、前年0%）
平年比：やや少〈-～±〉 前年比：並〈±〉
- ② 巡回調査圃場以外
一部で多発生した圃場が認められる〈±～+〉
- (2) 7月の気象予報
並発生の条件〈±〉
- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう注意する。
(2) 若茎及び親茎への寄生や食害による被害を防ぐため、虫見板（約20×30cm）への払い落とし調査（擬葉部を2～3回叩く）を実施し、寄生が認められる場合は薬剤防除を行う。

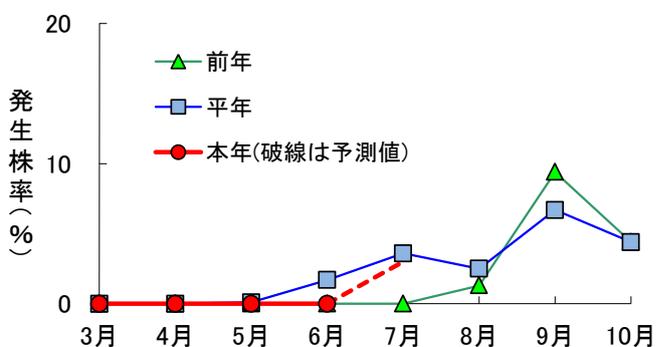


図1 ハダニ類のアスパラガスでの発生推移

カンキツ

巡回調査 (8 圃場)
調査日: 6 月 20 日~21 日



巡回調査圃場の様子

1. かいよう病

1) 予報の内容

発生量: 平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1、2 参照)

発生葉率: 0% (平年 0.2%、前年 0%)

平年比: やや少 (-~±) 前年比: 並 (±)

発生果率: 0% (平年 0%、前年 0%)

平年比: 並 (±) 前年比: 並 (±)

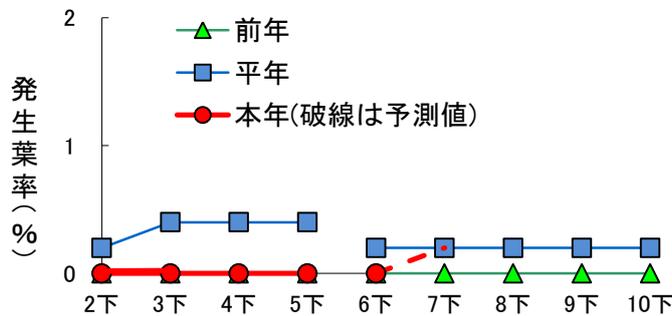


図1 カンキツかいよう病(葉)の発生推移

(注: 5月下旬までは旧葉、6月以降は新葉を調査)

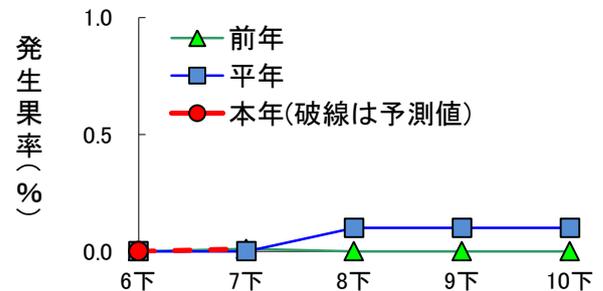


図2 カンキツかいよう病(果実)の発生推移

(2) 7月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件 (±~+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 前年発生園や、風当たりが強い園、罹病性品種 (ネーブル、はるみ等) の植栽園、新梢の伸長が遅くまで続く園 (幼木園、高接園、隔年交互結実栽培園等) では、無機銅水和剤 (クレフノン 200 倍加用) で定期的に防除を行う。散布間隔の目安は 20~25 日とする。

(2) 無機銅水和剤にマンゼブ水和剤を混用すると無機銅水和剤の防除効果が低下するので控える。

(3) 発病した枝や葉は伝染源となるため除去し、処分する。ただし、強剪定は枝を遅くまで伸長させ、本病にかかりやすい期間を長くするため行わない。

(4) 台風の襲来等強風雨が予想される場合は、襲来 7 日前~前日までに必ず防除を行う。

2. 黒点病

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生果率: 0% (平年 0.6%、前年 5.6%)

平年比: 並 (±) 前年比: 少 (-)

(2) 7月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件 (±~+)

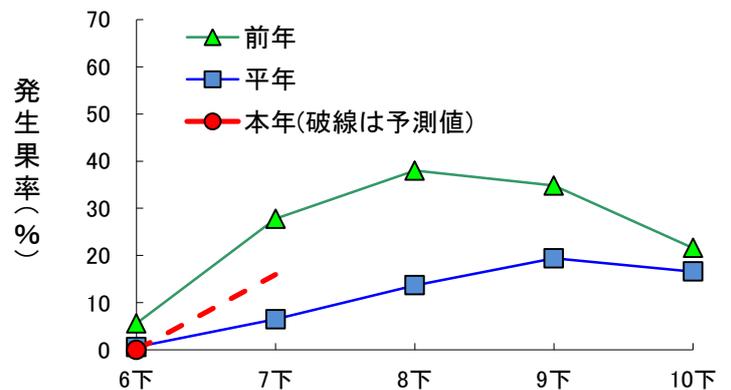


図1 カンキツ黒点病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) マンゼブ水和剤散布後の次回散布時期は、積算降雨量が200～250mm（マシン油乳剤を6月に加用した場合は300～400mm）に達した時点を目安とする。ただし、同雨量に達しない場合でも、散布後1ヶ月を目途に次の散布を行う。
- (2) 枯れ枝は伝染源となるため除去し、処分する。

3. ミカンハダニ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生葉率：22.3%（平年10.5%、前年8.6%）

平年比：多く（+） 前年比：多く（+）

(2) 7月の気象予報

降水量がやや多く、やや少発生の条件（一～±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 低密度時（寄生葉率30%未満または1葉当たりの雌成虫の数が0.5～1頭）からの防除を徹底する。
- (2) 殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を避けるため、同じ系統の薬剤は年1回の使用とする。また、前年に使用した殺ダニ剤は使用しない。
- (3) マシン油乳剤を7月以降に使用すると果実腐敗の発生を助長したり、糖度の低下を招く場合があるので使用しない。

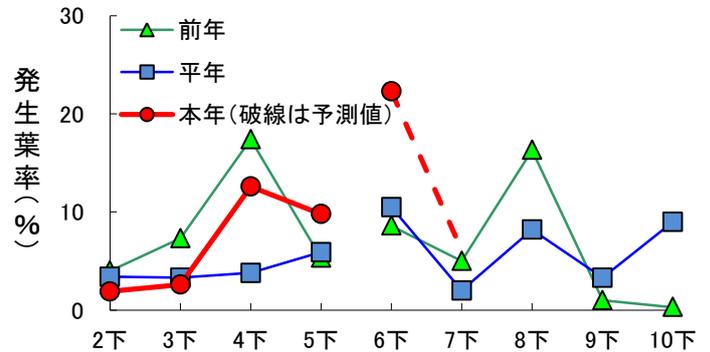


図1 ミカンハダニのキャンキツでの発生推移
(注：5月下旬までは旧葉、6月以降は新葉を調査)

4. チャノキイロアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生果率：0%（平年0.0%、前年0.3%）

平年比：並（±） 前年比：少（-）

②黄色粘着トラップ（図2参照）

平年比：多く（+） 前年比：多く（+）

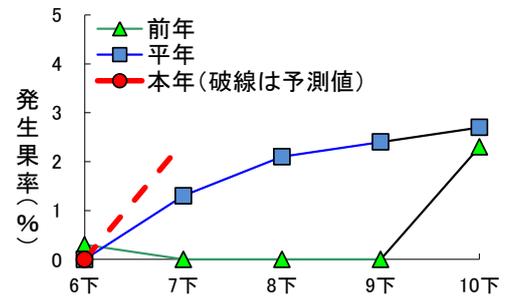


図1 チャノキイロアザミウマのキャンキツでの発生推移

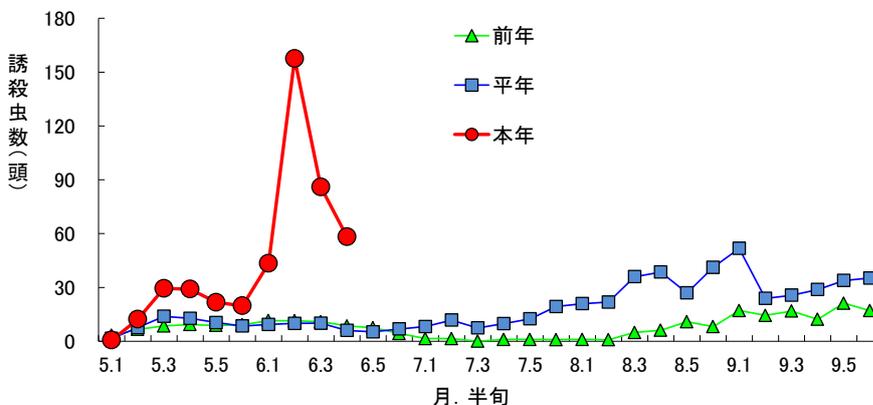


図2 黄色粘着トラップによるチャノキイロアザミウマの誘殺数の推移
(小城市、果樹試験場調査)

(2) 7月の気象予報

降水量がやや多く、やや少発生の条件〈一～±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照。

ナシ

巡回調査 (6 圃場)
調査日: 6月19日



巡回調査圃場の様子

1. 黒星病

1) 予報の内容

発生量: 平年並 (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

①巡回調査 (図1、2 参照)

発生葉率: 2.2% (平年 2.6%、前年 3.2%)
平年比: 並〈±〉 前年比: やや少〈一～±〉
発生果率: 0.4% (平年 1.3%、前年 1.2%)
平年比: やや少〈一～±〉 前年比: 並〈±〉

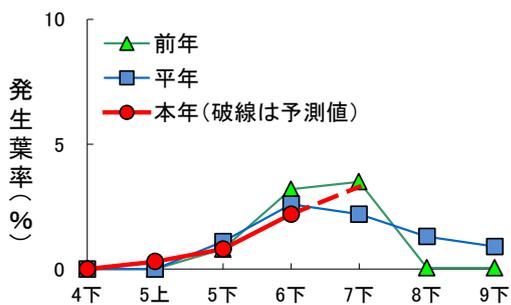


図1 ナシ黒星病 (葉) の発生推移

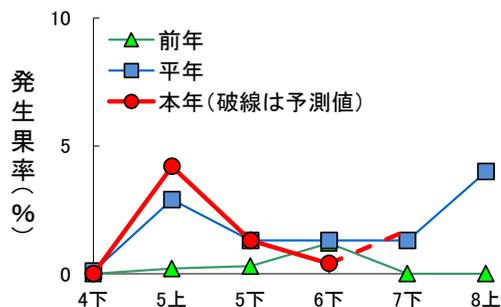


図2 ナシ黒星病 (果実) の発生推移

(2) 7月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件〈±～+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発病葉や発病果実は伝染源となるため除去し、処分する。
- (2) 曇雨天が続くと発生が多くなるので、天気予報等を参考に適切に防除する。
- (3) その他については、特記事項を参照する。

2. ナシヒメシンクイ

1) 予報の内容

発生量: 平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

①フェロモントラップ (図1 参照)

平年比: やや少〈一～±〉 前年比: 並〈±〉

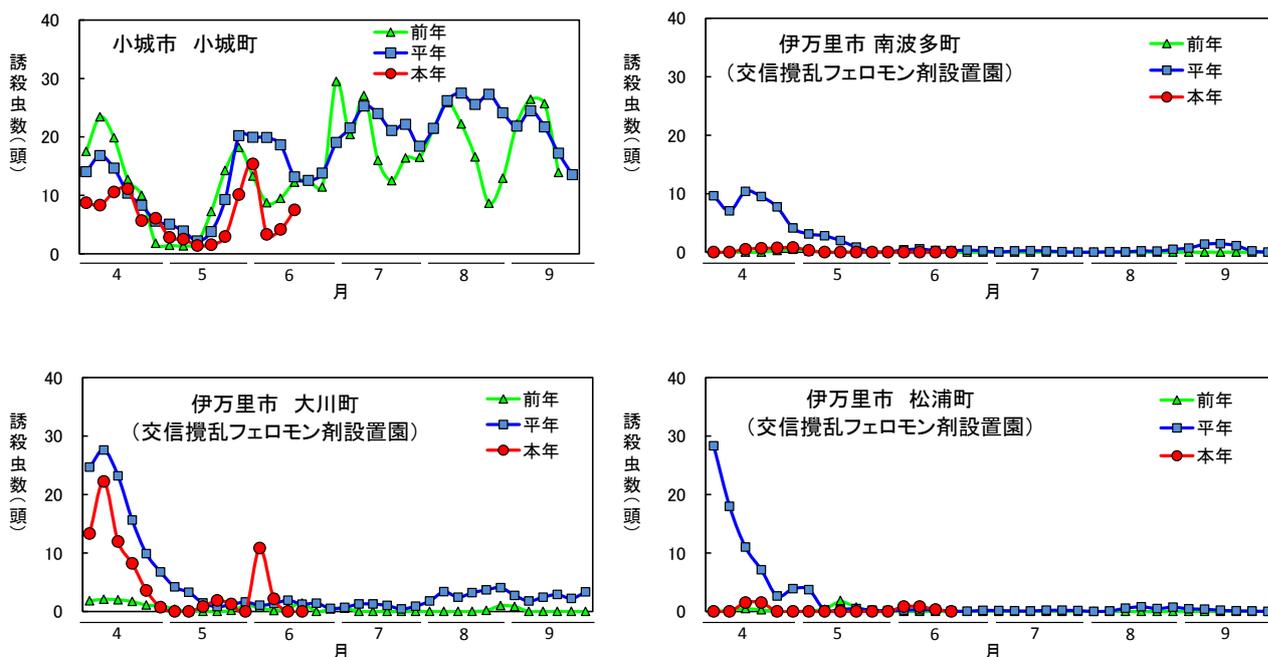


図1 フェロモントラップによるナシヒメシクイの誘殺数の推移
(果樹試験場、西松浦農業改良普及センター調査)

②サクラに設置したフェロモントラップ (表1参照)

サクラに設置しているフェロモントラップ (伊万里市3ヶ所) での、6月第1半旬~第4半旬までの誘殺数は前年並 (±)。

表1 サクラに設置したフェロモントラップにおけるナシヒメシクイの誘殺数 (頭)
(西松浦農業改良普及センター調査) ※6月1~4半旬の合計値

地点名	H26年	H27年	H28年	H29年
伊万里市 南波多町	37	7	8	6
伊万里市 大川町	23	34	17	36
伊万里市 新天町	79	74	50	51
計	139	115	75	93

(2)7月の気象予報

並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 7月以降は世代が混在するため、7~10日間隔で薬剤散布を行う。
- (2) 交信攪乱フェロモン資材設置園においても、10~14日間隔で薬剤防除を行う。

ブドウ

巡回調査 (6圃場)

調査日: 6月19日~21日

1. 黒とう病

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年よりやや少ない)



巡回調査圃場の様子

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

①巡回調査 (図1参照)

発生率: 0% (平年0.0%、前年0%)

平年比: 並(±) 前年比: 並(±)

(2) 7月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件(±~+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 罹病枝の剪除と巻きひげの処分を徹底する。

(2) 枝葉の徒長や晩期伸長にならないように肥培管理に注意する。

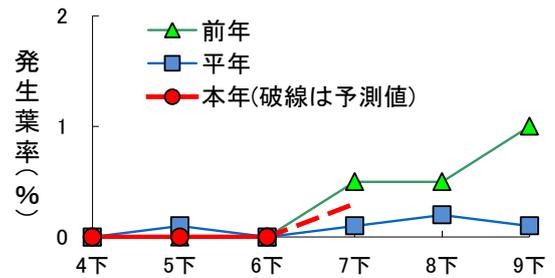


図1 ブドウ黒とう病の発生推移

2. ベと病

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

①巡回調査 (図1参照)

発生率: 0% (平年0.1%、前年0.2%)

平年比: 並(±) 前年比: 並(±)

(2) 7月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件(±~+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 防除効果を高めるために、棚面の上からも散布する。

(2) ストロビルリン系殺菌剤(アミスターフロアブル、ストロビードライフフロアブル等)に対する耐性菌が発生しているため、本系統薬剤は本病の防除に使用しない。

(3) その他については、特記事項を参照する。

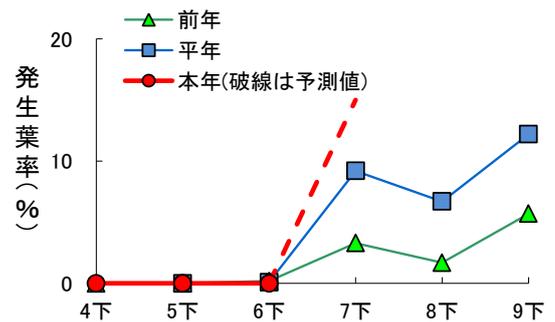


図1 ブドウべと病の発生推移

3. 褐斑病

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

①巡回調査 (図1参照)

発生率: 0% (平年0%、前年0%)

平年比: 並(±) 前年比: 並(±)

(2) 7月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件(±~+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 本病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、薬剤散布は葉裏にもかかるよう丁寧に行う。

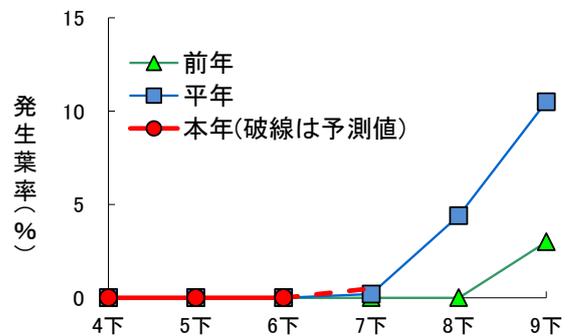


図1 ブドウべと病の発生推移

4. チャノキイロアザミウマ

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

①黄色粘着トラップ (カンキツのチャノキイロアザミウマ (図1) 参照)

平年比: 多(+) 前年比: 多(+)

(2) 7月の気象予報

降水量がやや多く、やや少発生の条件(-~±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 6月中旬～7月中旬頃は主要な加害時期であるため、薬剤防除を徹底する。

果樹全般

1. カメムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 予察灯（図1参照）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

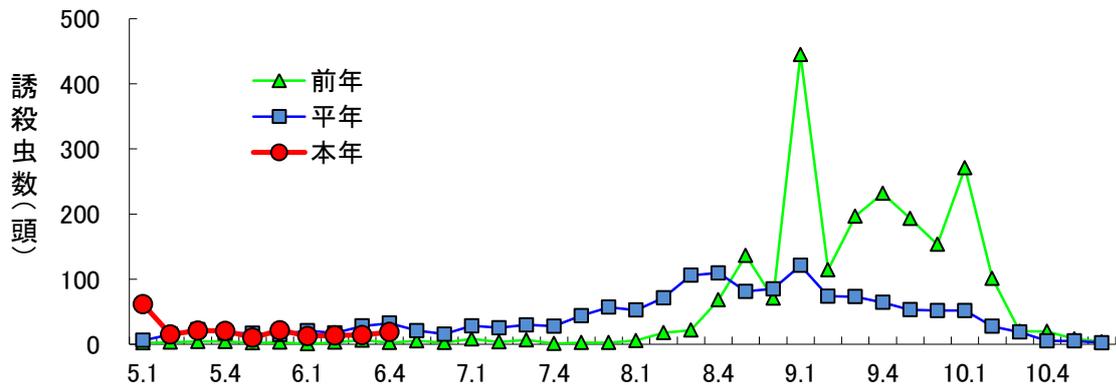


図1 予察灯（佐賀市、小城市、太良町）による果樹カメムシ類の平均誘殺数の推移

② フェロモントラップ（図2参照）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

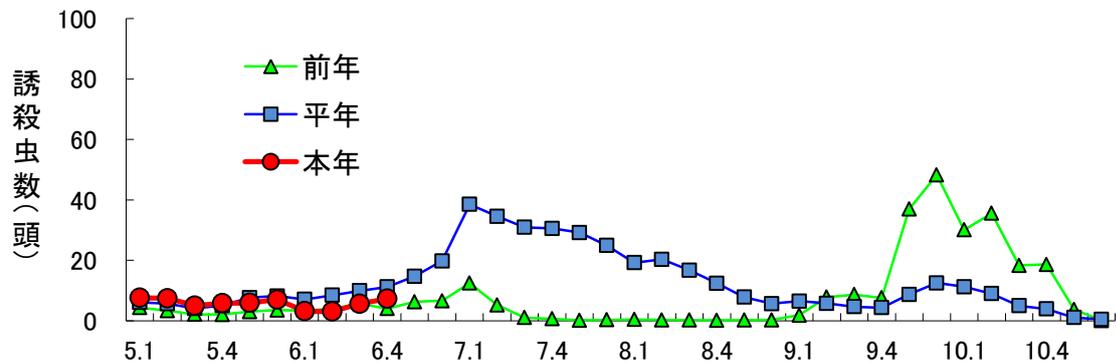


図2 フェロモントラップ（小城市、鹿島市、伊万里市、唐津市浜玉町、唐津市鎮西町、基山町）による果樹カメムシ類の平均誘殺数の推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 飛来状況は地域によって異なるため、園内をこまめに見回り、発生状況を確認する。

(2) 果樹カメムシ類は、樹高の高い樹木に一旦飛来し、その後果樹園に飛来する傾向があるので、防風樹等は必要以上に高くないように剪定をする。

(3) 合成ピレスロイド剤等を散布するとハダニ類やカイガラムシ類の異常増殖（リサージェンス）生じる場合があるので、これら害虫の防除対策も実施する。

茶

巡回調査 (7 圃場)
調査日: 6 月 20 日~21 日



巡回調査圃場の様子 (茶)

1. 炭疽病

- 1) 予報の内容
発生量: 平年より多い (前年より多い)
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況 (図1参照)
 - ① 発生葉数: 3.1枚/m² (平年1.0枚、前年4.1枚)
平年比: やや多 (±~+) 前年比: やや少 (-~±)
 - (2) 7月の気象予報
降水量がやや多く、やや多発生の条件 (±~+)
 - (2) 7月の気象予報
降水量がやや多く、やや多発生の条件 (±~+)
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 本病は雨滴により新芽に伝染するため、開葉初期の予防散布を徹底する。
 - (2) 三番茶を摘採しない圃場は、二番茶摘採後に浅刈り等を行い、発病葉を除去する。

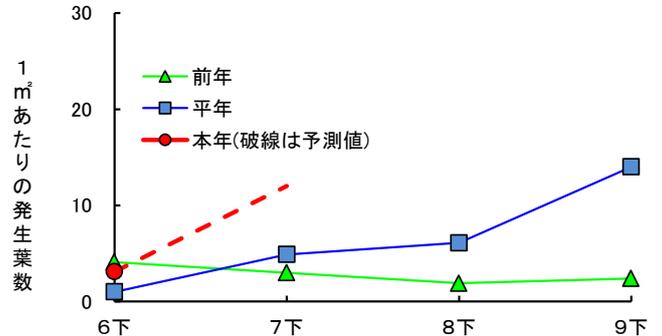


図1 炭疽病の発生葉数の推移

2. 輪斑病

- 1) 予報の内容
発生量: 平年よりやや多い (前年より多い)
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況 (図1参照)
 - ① 発生葉数: 0枚/m² (平年0.1枚、前年0.6枚)
平年比: 並 (±) 前年比: 少 (-)
 - (2) 7月の気象予報
降水量がやや多く、やや多発生の条件 (±~+)
 - (2) 7月の気象予報
降水量がやや多く、やや多発生の条件 (±~+)
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 整枝時の傷口から感染するため、摘採・整枝後直ちに防除を行う。なお、二番茶摘採後に多発した場合は、剪枝により発病葉を除去する。

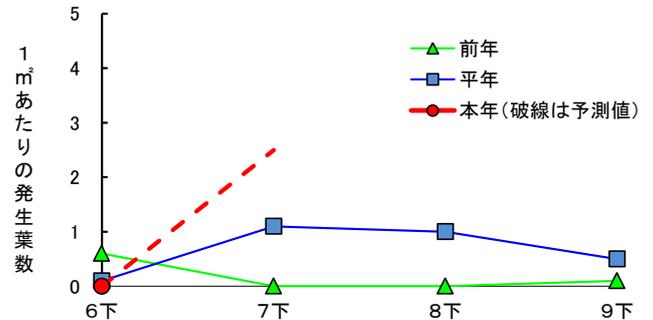


図1 輪斑病の発生葉数の推移

3. カンザワハダニ

- 1) 予報の内容
発生量: 平年より多い (前年より多い)
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況 (図1参照)
 - ① 巡回調査 (図1参照)
発生葉率 13.6% (平年0.9%、前年0.1%)
平年比: 多 (+) 前年比: 多 (+)
 - (2) 7月の気象予報
降水量がやや多く、やや少発生の条件 (-~±)
 - (2) 7月の気象予報
降水量がやや多く、やや少発生の条件 (-~±)
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項参照。

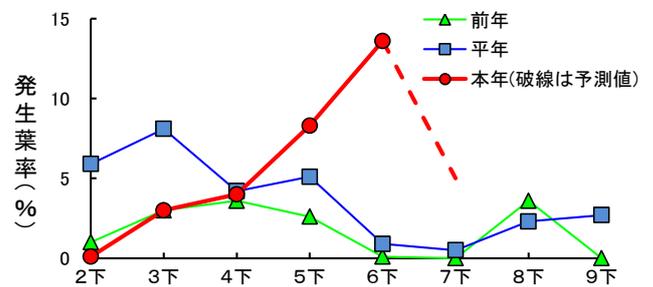


図1 カンザワハダニの茶での発生推移

4. クワシロカイガラムシ

- 1) 予報の内容
発生量: 平年よりやや多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況 (図1参照)

発生株率：31.4% (平年29.7%、前年38.6%)

平年比：並 (±) 前年比：やや少 (一~±)

(2) 第一世代の孵化・定着期の気象条件

5月の降水量は少なく、本虫の孵化・定着に好適な条件で推移したため、7月の発生は平年に比べやや多いと予想される。(±~+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照。

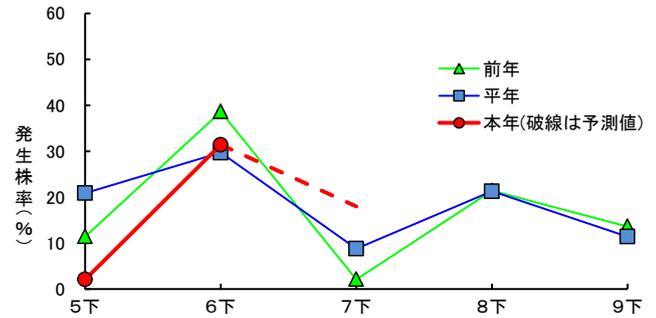


図1 クワシロカイガラムシの茶での発生推移

5. チャノミドリヒメヨコバイ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況 (図1参照)

虫数：1.0頭/4ヶ所 (平年3.2頭、前年6.6頭)

平年比：やや少 (一~±) 前年比：少 (一)

(2) 7月の気象予報

並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 萌芽期~開葉初期に防除を行う。多発生園では、さらに一週間後を目安に追加防除を行う。

(2) 幼虫は葉裏に生息することが多いため、葉裏へ薬剤が十分にかかるよう丁寧に散布する。

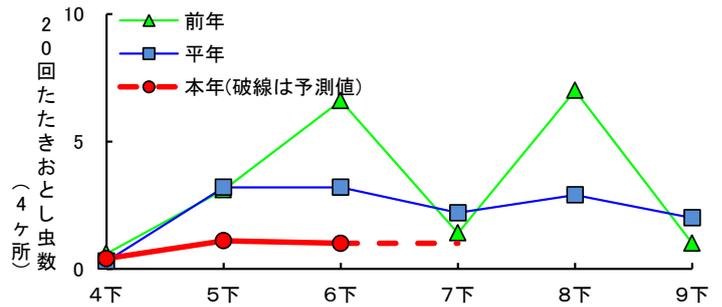


図1 チャノミドリヒメヨコバイの茶での発生推移

6. チャノキイロアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年並 (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況 (図1、2参照)

①虫数：28.4頭/4ヶ所 (平年17.2頭、前年5.9頭)

平年比：やや多 (±~+) 前年比：多 (+)

②吸引粘着トラップ

平年比：やや少 (一~±)

前年比：やや少 (一~±)

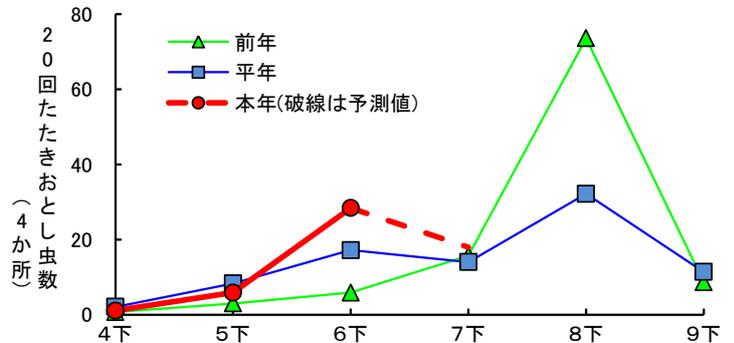


図1 チャノキイロアザミウマの茶での発生推移

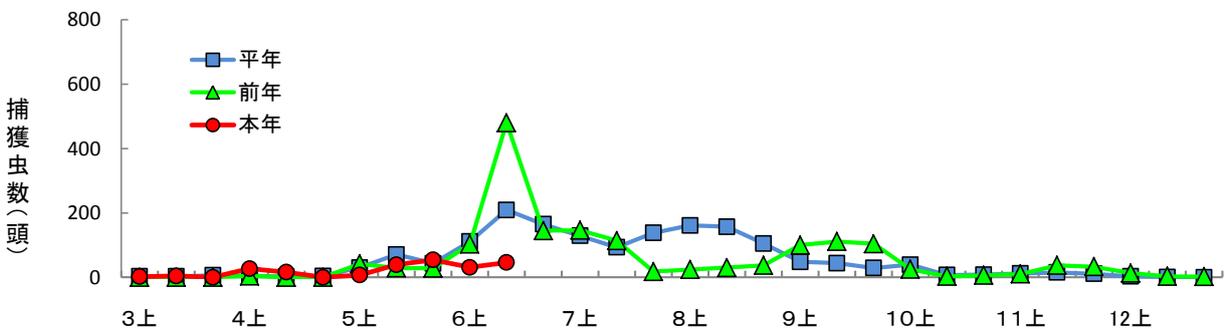


図2 吸引粘着トラップによるチャノキイロアザミウマの捕獲虫数の推移 (嬉野市嬉野町、茶業試験場調査)

(2) 7月の気象予報

降水量がやや多く、やや少発生の条件 (一~±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 萌芽期～開葉初期に防除を行う。多発生園では、さらに一週間後を目安に追加防除を行う。

7. チャノホソガ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況（図1、2参照）

①被害葉数：2.0枚/m²（平年4.3枚、前年0.1枚）
平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

②フェロモントラップ

平年比：多（+） 前年比：多（+）

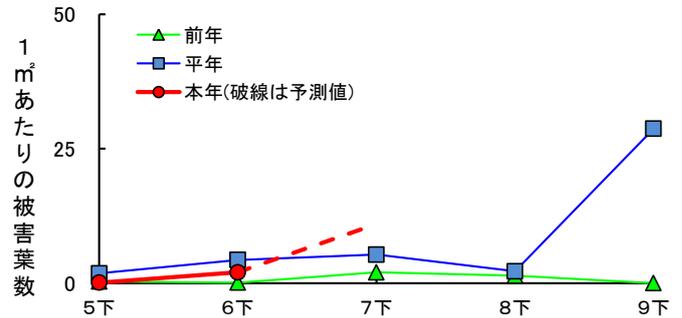


図1 チャノホソガの被害葉数の推移

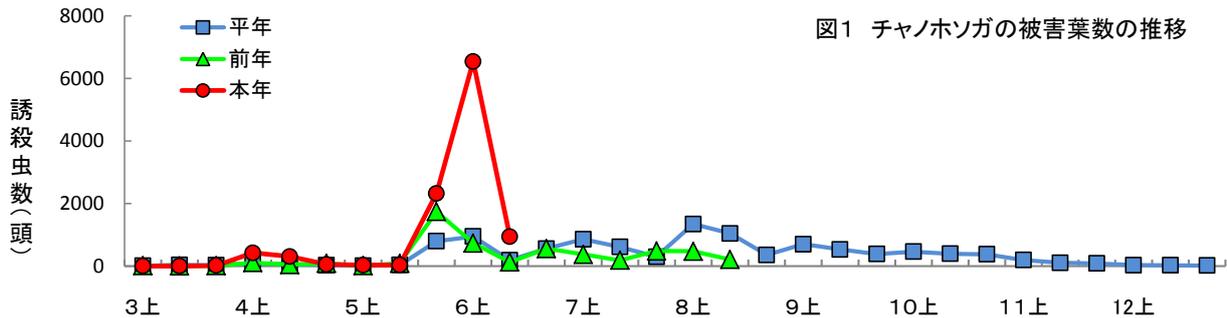


図2 フェロモントラップによるチャノホソガの誘殺数の推移
(嬉野市嬉野町、茶業試験場調査)

(2) 7月の気象予報

並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088
TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085
Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp